

やまぼうしの会

—— 自然教育の一つの試み ——

北大自然保護研究会



都会の無機的な膨張は自然を外へ外へと押しやり、都会に住む人間と自然とを生活面において、完全なまでに切り離し

自然教育班の経過

北大自然保護研究会の自然教育班は去年六月に生まれた新しい班です。この班は恵庭岳滑降コース跡地に残された千歳市の支笏湖自然の村における、さまざまな青少年情操教育を批判的に受けとめたサークル員によって、恵庭班から分離独立した班です。

私達は真の自然教育とはどういうものか、ということを実際に活動しつつ、模

てしまったといえるでしょう。自然保護が叫ばれたのが、過去に豊かな自然に接触でき、かつ都会との比較において自然の大切さを認識した良識ある人々によっているということを考えれば、このままコンクリートやアスファルトによって閉じ込められて子供達が成長したなら、ますます自然の大切さにも気づかない。ましてや自然の正しい利用の仕方もわからない。自然保護など、とうてい望めない社会に固められてしまいかねません。理想的な自然保護とは、自然保護を叫ばなくても自然が保護される社会があることだと思えます。いろいろな価値感が複雑に入り混じる都会周辺で、このよう

なことはほんとに理想だと思えますが、住民の一人一人が身近な自然、残された自然を自分の生活の一部にとり入れるという積極性において新たな価値を自然に与えることから出発すれば、このような理想に近づけるのではないのでしょうか。たとえば札幌市において、まだまだ週

辺の自然は豊かですが、ほとんど市民に利用されていないがゆえに、それは札幌市を膨張させるための土地としての価値、山ならばその斜面はスキー場としての価値しか見えません。もし市民が気軽にその自然に溶けこみ、いこいの場、散歩の場、バードウォッチングの場など、一人一人が価値づけていけば、その自然は札幌市民にとって新たな意味を持つわけです。

もちろん行政は、そのような場を保障し、そのような市民の行動を助成しなければなりません。しかし社会的常識の上で自然保護がなされるためには、人の成長期において、そのような価値づけができるほど自然と親しめるようになることが必要だと思えます。

私たちのやろうとしていることは、自然教育です。それは自然に触れることのない都会の子供たちに機会を作ってや

り、自然の中での遊びを通して自然を見る目をやしない、自然のすばらしさ・大切さを原体験として感じとってもらおうとするものですが、もう一方、都会と自然との往復において、都会に欠落していることに気づいてくれればと思っ

（山田記）

幌北地区の「日の出子ども会」に『石狩水芭蕉を見にいこう』というプランを出したのが、四月八日の子ども会の班長会のときでした。

この頃はまだ雪が残っていて膚寒かったです。二回の下見のうちに急速に春は近づいてきました。柳林の雪は溶け水芭蕉の芽が出てきてひばりが鳴き、茨戸川でエビとりや、浜でハマボウフウつみをする人も見かけました。その間、子ども会の世話役の方にお願いで、パンフレットを回覧板に載せてもらい、子どもたちを誘いました。

四月二十九日の天皇誕生日に行く予定でしたが、前日雪で五月一日に延期。一日は曇りで、ゴールデンウィークに入ったためか予定日ほど集まりはよくなく、女の子が三名(中一)、男の子が一名(中二)、そして父兄の方一名でした。小学

案していこうと思っております。以下にこの一年間の簡単な活動経過を述べていきたいと思えます。

△6月8日▽

・ 試行錯誤の日々がつづく。特に子どもを集め方について苦勞する。

△9月▽

・ 応急手当てのしかたを学習（赤十字の都合で講師は招けず）。

・ 子ども会と接触することを検討。

△10月▽

・ 北区役所におもむき趣旨を説明し、子ども会の名簿をもらう。その中から北十八条の日の出子ども会を任意に選び、子ども会役員の方々と二度、趣旨説明のため会う。特に二度め（10月29日）は顧問の辻井先生も混じえて責任問題、保健問題などの実務的なことや、先生の経験談（アラスカ探検学校）などを聞く。

・ 自然教育班を「山ぼうしの会」と命名。

・ 11月14日に、円山で自然観察会を計画。

△11月12日▽

・ 11月5日、日の出子ども会の子どもたちにはじめて会う。14日の計画を提示。

生がいなかったのが、多少寂しい気がしました。

察しました。

北十八条西一丁目の停留所から石狩行きのバスで矢臼場下車、徒歩十五分で石狩大橋の東方五百メートルほどのところにある水芭蕉の自生地に着きます。水芭蕉は石狩川の岸近くの湿地帯の、ヤナギ林の下にある群落であります。自然保護研究会のメンバーを合わせた一行十八人のほかに、絵を書く人、地元の小学生がいました。最初あぜ道にそって約二〇メートル離れたところから観察、木の間にたくさんのお花がありました。少し小さいようです。はじめて実物を見た子どもたちはキョトンとしていたようですが、こんなきたないところに咲いているのか写真で知っているとはいえず、形が変わっているなどの感想があったようです。今度は迂回して湿地帯の中へ入って行くと泥水の中を歩くのは久しぶりなのか、はしゃいでいます。間近で花を見て、みんなの感想はきれいな一言。花をさわって

さて、ここからひき返して石狩浜の方へ。浜に出てお昼の休けい。紅茶をわかつ間、女の子たちはたくさん物の打ちあげられた浜辺の散歩、そして落とし穴作り。男の子は貝拾いをして、流木で大学生たちとたき火をはじめました。そして昼食。拾った貝を焼いたのですが、生煮えで食べられなかったようです。食後は野球をやったり貝殻をひろっているうちに、動物の死骸に出会ったり。浜べに打ち上げられているシャコ、カキ、カニなどを見て、どう思ったでしょうか。

天気よかったですので、予定を延長して石狩浜を三線まで散歩しました。釣りをしている人に話を聞いたりしました。ちょっと歩いた距離が長かったから疲れたでしょうか。でも、楽しく遊べたと思います。

（高浜記）

□

福士 由紀子

あんなに、きれいに咲いているのを見るのは、はじめてでした。いつでも見られるのなら、もう一度行ってみたいと思いました。それから、海も、とてもいいなあ——と思いました。シーパンをぬらしたけれど……。

とてもいいところへつれて行ってもらえて、ありがとう。おにいさん、おねえさん。

（中学一年生）

□

田中 範彦

おもしろかったけど、水芭蕉の花を見るとき、長くつを持っていかなかったの、くつの中に水が入り、べちゃべちゃになった。でも、お兄さん、お姉さんたちが、サンダルなどをかしてくれました。どうも、ありがとう。

それにあんなに水芭蕉をみたのは、はじめてでした。できるなら引っこしをする前に、もう一度みんなと行きたいな。

（中学二年生）

□

五十嵐 和江

ずっとまえにみんなで計画した円山行きが、いろいろと条件が悪くなり、行く人も少なくなつて、とうとう中止ということになりました。だから今度はぜったいに、みんなずるしないで参加しようと思つたのです。子供たちがたった四人で大きい人たちがその倍の倍だったから、びっくりしました。

まず水ばしょですが、あんなにたく

・11月9日、円山へ下見。

・11月14日の観察会は天候不順、子どもたちの出足不調で中止。

・12月12日、北区主催のもちつき大会を見学。

・11月中旬から冬休みまで、野鳥・野草に関する学習会をつづける。

△1月▽

・今年一年間の大まかな計画作製。

・児童心理の学習はじめる。

△2～3月▽

・日の出子ども会と接触を保ちつつ児童心理継続学習、天文気象学習。

・春休み明けの4月に石狩浜での自然観察会を計画（4月29日を予定）。

△4月▽

・4月7日、17日の両日、石狩浜へ下見。

・4月24日の日の出子ども会総会の席で、秋までの計画を提示。

・4月29日の自然観察会は天候不順で中止になるが、予備日の5月1日、石狩浜において第一回自然観察会を行う（参加子ども4名）。

（小松記）

さん、それもおくの方に咲いているのは、はじめて見ました。こんなにあるんだから一コぐらい、ひっこぬいても……と思ったのですが、みんなが、あやしげなまなこでかんししていたので、そこをなんとかおさえたのです。

それからなんといつても、とっさに気づいたことは、まわりの水のきたなきさ。

「水ばしょうの花が咲いている夢見て咲いている水のほとり」などという、美しいうたがありますが、わたしもそのうたのとおり、美しい池のようなところを想像していたのに、少しあてがはずれてしまいました。

おねえさんたち二人と私たちで話をしたところ、小さいほうのおねえさんは、いつもむじやきにかわいい話をしてくれました。たとえば、水ばしょうを指さしながら「あれもう少しで、熟れ時で食べごろになるよ。おいしいよ」といったのが、印象に残っているのです。背の高いおねえさんは、とてもたよりがいがある、わたしの姉さまのような感じがありました。

それと後悔したことは、おにいさんがたにもおやつをあげればよかったということなのです。それから、もっと水ばし

ような話をしてもらいたかったです。

そのあと、海岸に行くとお昼にしてから、足の先しか入らないおとし穴などを作って遊んだのがおもしろかった。中略——海をじつと見ていると、なんとなく波にさらわれて行くような気がして、ふつとおっかなくなり、その反対に気が休まるのです。

この日はだいぶ歩いて運動になったけれど、もしでることなら、わたしたちだけの小型バスなどに乗って行けたら、よかったのと思います。それと、もう少し子供たちの人数があれば、楽しかったと思います。

みんなにあとから聞いてみたら、一人、おもしろかったから、また今度どこかへ行きたいといっていたし、わたしもそれと同じだから、今度は山の方にビクニックに行けばいいんじゃないかと思っています。

（中学一年生）

□

相沢千夏

私は、北大のおにいさんや、おねえさんと一緒に石狩の方に遊びに行つて、とてもいい思い出になりました。

ミズパシヨウのたくさん咲いていると

ころに行つたのは、私の記憶ではぜんぜんないので、花を見たときには「すばらしい花だなあ」と何度も思いました。それに、いろいろと勉強できました。ミズパシヨウは、水のたまっているきたないところに咲くこと。わりと花がかたいこと。ふつうの花と形がぜんぜんちがうことなど、ほかにもいろいろとわかりました。

それから、ミズパシヨウを見るとき長ぐつをはいて、水たまりの中に入つて行ったときはつめたくて、なんともいえない気持ちのよさでした。いまでも、その感じが足のうらにのこっているようです。

話は変わるけど、海辺で遊んだときもとっても楽しかったです。海が少しきたなかつたけど、きれいな貝がひろえました。でも、少し大き目の波がきて長ぐつの中に海水が入ったときは、とてもつめたかったです。それから、一生けんめい落とし穴をつくつたけれど、じょうぶに作りすぎて失敗してしまいました。いろいろとあった一日だったけれど、とても心の中に残りました。私は、「またこういふきかがあれば、もう一度、いつてみたいなあ」と思いました。

（中学一年生）